

女川原子力発電所 2 号炉 指摘事項に対する回答一覧表
 (運転中の原子炉における格納容器破損防止対策の有効性評価)
 (過圧過温 (代替循環冷却系を使用する場合), 水素燃焼)

No	分類	項目	審査 会合日	回答
1	指摘 事項	格納容器破損防止対策として期待している代替循環冷却系の信頼性について、提示すること。	H29. 10. 26	代替循環冷却系は、原子炉格納容器フィルタベント系及び残留熱除去系と多様性及び可能な限りの独立性、位置的分散が図られている。 (資料 3-1-3 にて回答)
2	指摘 事項	SRV の排気温度計について位置づけと検知の可能性について整理すること。	H28. 7. 12	SRV 出口温度計は原子炉運転中に SRV からの漏えいを検出するために、SRV の吐出配管に設けてある温度計である。SRV 出口温度計による炉心損傷検知については、炉心損傷を検知できる可能性があるものの、不確かさが大きいと考えられる。炉心損傷の検知はCAMSで実施しており、SRV 出口温度計による炉心損傷検知はCAMSが使用不能の場合においても炉心損傷検知の代替手段として位置づけていない。 (資料 3-1-2 にて回答)
3	指摘 事項	FCS により水素・酸素濃度を十分低減できることを定量的に説明すること。	H28. 8. 15	FCS の酸素ガスの処理能力は、放射線分解により発生する酸素ガス量を上回るため、FCS が使用可能な場合、格納容器内の酸素濃度が制御可能である。 (資料 3-1-2 にて回答)

No	分類	項目	審査 会合日	回答
4	指摘 事項	安定状態後の長期的な状態維持において、FCS 等の水素燃焼対策を説明すること。	H28. 8. 15	水素燃焼対策として可搬型窒素ガス供給装置を用いた窒素ガス供給による可燃性ガス濃度上昇抑制手順、原子炉格納容器フィルタベント系による可燃性ガスの排出手順及び可燃性ガス濃度制御系を用いて可燃性ガス进行处理する手順を整備している。 (資料 3-1-2 にて回答)
5	指摘 事項	水素、酸素の計測方法を詳細に説明すること。	H27. 3. 10	重大事故時における格納容器内の水素濃度及び酸素濃度を監視する設備として、検出器を格納容器内に設置し計測を行う格納容器内水素濃度、及び格納容器内の雰囲気ガスをサンプリングし計測を行う格納容器内雰囲気水素濃度及び格納容器内酸素濃度を設置する。 (資料 3-1-2 にて回答)
6	指摘 事項	可搬型設備による N2 パージの成立性について、系統構成、漏えい防止、悪影響防止等の観点で説明すること。	H28. 8. 15	可搬型窒素ガス供給装置を用いた格納容器及び原子炉格納容器フィルタベント系への窒素ガスによる不活性化は、フランジ構造及び嵌合構造とすることで確実な接続により漏えい防止が図られ、使用時は弁操作による系統構成を行うことで他の設備に悪影響を及ぼさない。 (資料 3-1-2 にて回答)